

科学新聞

週刊 (金曜日発行)

発行所 科学新聞社
本社 (〒105-0013)
東京都港区浜松町1-2-13
電話 03-3434-3741
FAX 03-3434-3745
mail:edit@sci-news.co.jp
振替 00170-8-33592
購読料 1ヵ月 2,160円(消費税込)

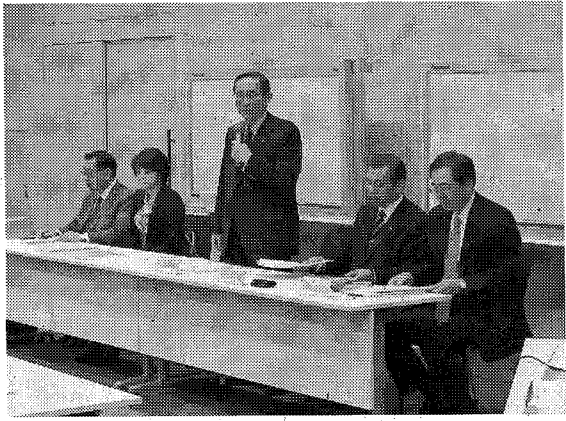
国立大学施設等整備計画決定

面

島尻担当相初出席、安倍首相がメッセージ

超党派議員連盟「科学技術の会」は、4月6日に総会・報告会を開き、日本の科学技術イノベーション推進のため、安倍首相に對して同会が行ってきた提言および提言のための提案などについて、その後の状況などを報告して議論した。今回の総会・報告会には、科学技術政策を担当する島尻安伊子内閣府特命担当大臣が初めて出席してあいさつするとともに、安倍首相がメッセージ(内容は2面に掲載)を寄せた。同会には、会員ならびに同会の学識協力メンバー、オブザーバー、同会事務局などから80人以上が出席した。

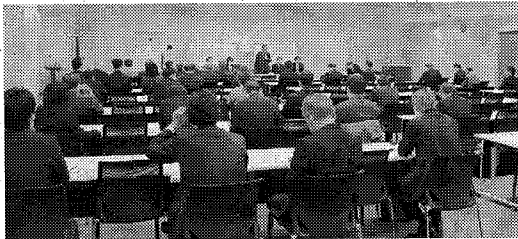
議連「科学技術の会」が総会



左から塩谷副幹事長、島尻大臣、細田共同代表、大島共同代表、斎藤幹事長

総会・報告会は、同会幹事長の斎藤鉄夫氏(衆議院・公明党)による司会で行った。冒頭では、同会共同代表の細田博之氏(衆議院・自民党)と大島章宏氏(衆議院・民進党)があいさつした。細田共同代表は、これまで政権交代があっても同会は超党派で活動が続けてきたと語り、今後

第5期基本計画、外交、拠点形成、サイバーセキュリティ強化など報告



総会・報告会の様子

大島氏は、X線天文衛星「ひびき」の故障やスペースシャトル「コロンビア号」の空中分解などを例にあげ、科学技術は時に事故や困難に遭いながらもそれを乗り越えて前進してきたと語り、

報告に対し、総合科学技術・イノベーション会議の原山優子議員から、G7次長・つくば科学技術大臣会合に向け、同会議として議論を進めたいと語り、しっかりと準備を進めたいとの発言があった。同じく久間和生議員からは、第5期科学技術基本計画を進めることが決まった「Society5.0」について、その言葉の使い方も含め、各省庁および産官学の全員が、これから世界に発信して成果をあげてい

に分かりやすく説明していく必要があると思う一方、これを進める上で重要な制度面、倫理面などについて日本としての方向性を示していく必要があるとして、そうした問題について科学技術の会で議論してもらい指導を仰ぎたいと語った。

一方、安倍首相が今回の総会・報告会に寄せたメッセージを、科学技術の会副幹事長の塩谷立氏(衆議院・自民党)が読み上げて紹介した。塩谷氏は、今回の総会・報告会には島尻大臣が出席し、安倍首相がメッセージを寄せたとおり、同会がいかに大切かということを示すものだ述べた。

この後、科学技術イノベーションの推進と課題を議題として、同会が安倍首相に提出した提言、提言のたの提案の、その後の状況などを報告して意見を交わした。

内閣府からは、第5期科学技術基本計画の概要が報告され、超スマート社会の実現と、そのための一連の取り組み「Society5.0」の推進、科学技術の人材強化としての若手研究者育成や女性研究者活躍した。また拠点としてのT

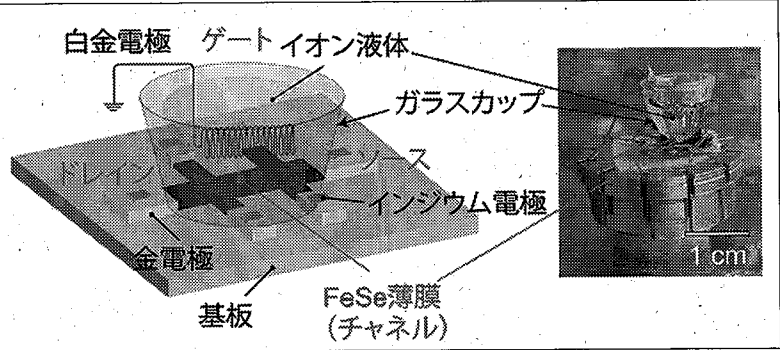
IA-nanoについては、スマートシティ、イノベーションの創造にイオなど、さらに分野を拡大した研究拠点に発展させるため、nanoをとって「TIA」の名称に変更することが報告された。

東京都からは、けいはんな学研都市の取り組み状況が報告された。この25年間で学研地区の人口が5倍に増え、研究機関や企業のサイバーセキュリティを強化するための研究開発や人材育成、国際協力などが、緊要視されている。

鉄系超伝導体 臨界温度4倍

東工大グループが成功

東京工業大学フロンティア材料研究所の平松典准教授、同大元素戦略研究所の細野秀雄教授、半沢幸太大学院生の研究グループは、鉄系超伝導体の1つである鉄セレン化合物「Fese」のごく薄い膜を作製し、8K(ケルビン)で超伝導を示すバルク(塊)より4倍高い35Kで超伝導転移させることに成功した。



【作製した電気二重層トランジスタの概略図と実際の写真】6端子状に形成した厚さ約10ナノメートルのFeSe薄膜チャンネル上に、ゲート絶縁体として働くイオン液を流し込み、コイル状の白金で作製したゲート電極から外部電界(ゲート電圧)を印加し、ドレインソース間の電気依存性を測定した。

最後に、三浦事務局長から、科学技術外交に関してはJST、JIC A、NICT、JETRO、NEDO、WTCなどの関係機関も協力しており、一体となった外交推進に向けて準備を進めているという補足説明があった。また「科学技術の会」のさらなる会員募集拡大、一般に対する活動報告実施、関係省庁からの活動予算の獲得などを検討していること、同会事務局からの説明も行った。

新しい手法の導入等、様々な工夫が行われていることが評価された。また、マテリアルインテグレーションという極めてチャレンジングなテーマについてもマイルストーンが明確に設定され、各テーマの開発が概ね計画通りに進捗している

にはもう少し時間を要するが技術力の高さを示せるものとするのか、実用化が近く、近未来に実現する水素社会を想像できるものとするのか」といった指摘もあった。

革新的構造材料とエネルギーキャリアが「A」

の想定以上の成果が得られている。(C)、B

当初配分額

評価結果	配分額
B+	19億円
B+	23億円
A	36.9億円
A	34.9億円
C	45.6億円
B	26.2億円
B	31億円
B-	21.1億円
C	25億円
B	26.6億円
B-	21.9億円

西尾健・法政大学生命科学部教授(PD)の次世代農林水産業創造技術もC評価。農政改革と一体的に、革新的生産システム、新たな育種・植物保護、新機能開拓を実現し、新規就農者を一つの主体が

毎月18日発売 本体800円(税別)
 予約定期購読(税別送料)
 半年(4800円)、2年(15,400円)
 1年(8500円)、3年(20,500円)

化学

5【解説】◆カーボンナノチューブの新たな光機能—アップコンバージョン発光のしくみと応用展開◆合成DNAからつくくる人工増殖因子—「使い勝手のよい」医薬品を目指して【研究物語】魔女の雑草の呪いを解く分子—寄生植物「ストライガ」の発芽を制御する分子を開発 電子版 好評発売中!

素領域

ととイ画技第